

子どもを地域の宝として育てるために

～「須佐地域協育ネット」の取組～

【萩市 須佐中学校区】

地域の概要

須佐中学校区は、山口県の北部に位置し、地域の南側は島根県津和野町、山口市阿東に接しています。地域の基幹産業は、農業と漁業が中心で、過疎高齢社会など多くの問題を抱えています。校区は南北に長く、保育所 1 園、小学校 2 校、中学校 1 校があり、保育所・中学校は通園・通学バスを利用しています。

人口	2,765 人	
世帯数	1,369 世帯	
対象校及び児童生徒数	須佐中学校	69 人
	育英小学校	75 人
	弥富小学校	11 人

組織の内容

次代を担う子どもたちを「地域の宝」として育てるため、須佐地域協育ネット協議会は生徒指導推進協議会(事務局／公民館)を中心とし、ふるさとづくり協議会や須佐地域青少年育成市民会議、子ども会育成連絡協議会、PTA連絡協議会、保育所、小・中学校などの組織と連携し各種活動を展開しました。

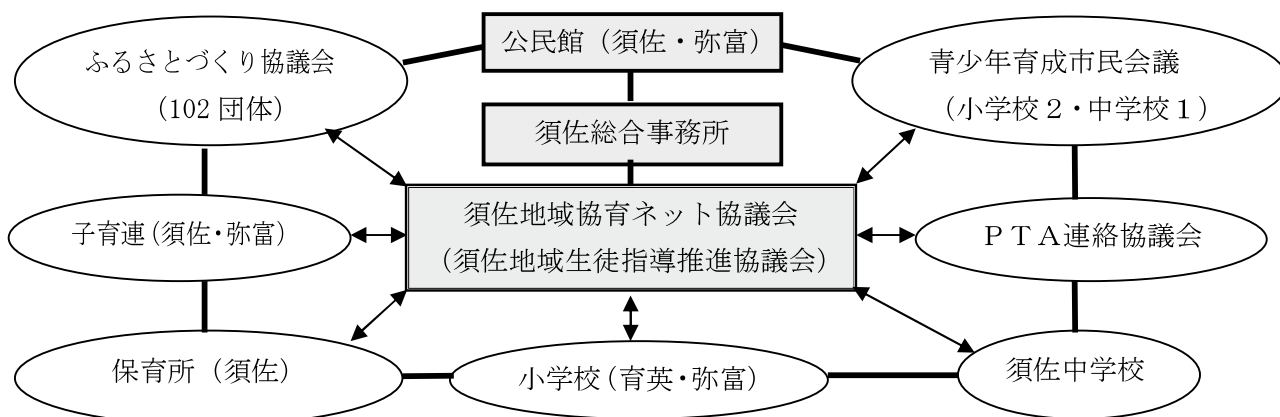
今年度は、一昨年 7 月 28 日の豪雨災害後、人口の流失や環境変化など多くの問題や課題を抱えながらも、新たな活動を取り入れ、次代を担う子どもたちが興味を示すプログラムの作成を行いました。

特に、今回の災害で大人も子どもも学んだ、「助け合う心」と「地域を愛する心」について、これを生かす中で、それぞれの団体や組織の協力を得ながら、無理のない範囲での活動を実施しました。



地域の高齢者との交流「弥富子ども大会」

【組織図】



特色・重点的な取組

少子・過疎・高齢社会が深刻な問題である須佐地域において、次代を担う子どもたちを育成することは必要不可欠なことであり、大きな課題でもあります。

少子化の中、「子どもは地域の宝」と長年言われているものの、今まで子どもたちに期待はしても何も教えてこなかったのが事実です。「須佐地域協育ネット」では、この反省を踏まえ、各種団体が連携し、できるだけ多くの社会体験を通じ、子どもたちに思いやりや郷土愛に富んだ心を育てる取組を行いました。

主な活動の紹介

○ 8/5 世界スカウトジャンボリー地域プログラム

日本での開催は44年ぶり2回目、地域プログラムの開催は初めてであり、須佐地域には海外から120名のスカウトが参加しました。午前中は地域の特色を生かした、竹細工、そうめん流し、そば打ち体験などが行われ、午後は各小中学校で児童生徒たちと交流を深めました。

○ 10/14 地域体験プログラム「須佐歴史キッズ」打合せ

放課後子ども教室の時間を利用し、キッズ隊員との協議を行い、「地域再発見!!」をテーマに子どもたちの自主性を重んじた計画を作成しました。

○ 11/20 幕末体験「育英塾」開催

ふるさとの歴史・文化を学び、次世代を担う子どもたちに郷里の素晴らしさを伝えることを目的に、豪雨災害から3年ぶりに復旧した、萩藩永代家老益田氏の居宅で、23回目の塾が開催されました。子どもたちは、着物姿で正座し、幕末当時の書物の朗読、習字、剣術等を学びました。



育英塾で論語を朗読

○ 11/23 須佐歴史キッズ「ジオ探検①」開催

地域のシンボルである、須佐ホルンフェルス、高山についての学習を行いました。最初に隊員たちは、弁当パックを利用した高山の3D地形模型に挑戦、地図を頼りに等高線を高さごとに描き、それを重ねることで、立体模型ができ上がり、それを片手に高山山頂を探索し、木陰に隠れた記念碑等を発見しました。



新たな発見をめざして

○ 12/26 地域交流「弥富子ども大会」開催

地域の高齢者にしめ飾り作りを学びました。地域の伝統を次代に伝えるために毎年実施しています。

○ 2/中旬 須佐歴史キッズ「ジオ探検②」開催

身近な自然にふれることにより、どのようにすれば春の息吹を感じることができるのか考えていきます。

○ 3/中旬 須佐歴史キッズ「次年度計画」

須佐歴史キッズは2年目の試みでした。大人も子どもも多忙の中、今年度の反省を元に次年度の計画を立案していく予定です。

成果と課題

子どもたちの生活も、家庭と学校の往復で、なかなか地域の自然や文化等にふれあう機会には恵まれないうち、地域体験プログラムの活動を通して少しずつ「須佐が好き。」という声を聞くようになりました。「歴史を学ぶことで、地域を知る」というテーマで、遊びを通して自然と歴史を学ぶことで、子どもたちも楽しんで参加しています。地域体験プログラムの活動が定着するには、もう少し時間がかかりそうですが、地域ぐるみで子どもたちを育てようという地域の人たちの意識の向上が図られてきたことは、大きな成果と言えます。

今後の取組

今年度の貴重な体験を生かし、次年度の活動計画を更に充実させていくことが必要です。そのためには、学校・家庭・地域の密接な連絡調整をする必要性を感じています。須佐地域の子どもたちを地域でどのように育てるかが、今後の須佐地域の課題であることを肝に銘じて取り組みたいと思います。